

## ☆多職種の連携必要 ひたちなか、研修会 医療的ケア児支援

茨城新聞社 2018年7月3日

[http://ibarakinews.jp/news/newsdetail.php?f\\_jun=15305358808257](http://ibarakinews.jp/news/newsdetail.php?f_jun=15305358808257)

＞ ひたちなか市内の障害福祉サービス事業所を対象にした研修会が6月29日、同市東石川のワークプラザ勝田であり、医療的ケア児の支援をテーマにデイサービス経営者と病院職員が講演し、多職種での連携の必要性を説いた。

研修会は市の委託事業で相談支援事業所「こもれび」が企画し、事業所の職員ら約40人が参加した。

医療的ケア児は、たん吸引やおなかに穴を開けてチューブで栄養を送る胃ろうなどの医療行為が日常的に必要で、看護する親の負担が課題になっている。

研修会では、医療的ケア児を日中預かる市内の重症児デイサービス経営者2人と県立こども病院のソーシャルワーカーが講師を務めた。病院側からは、家族の休息となるショートステイが不足し、「家族だけで頑張らざるを得ない状況」との指摘があった。また、退院後の様子は病院では十分に把握できないため、在宅生活を支えている事業所に対して「地域での家族のことを教えてほしい」と情報共有を求めた。

一方で重症児デイサービス側は「退院は病院にとって『出口』の位置付けだが、在宅に移る家族には『入り口問題』とし、自宅に戻ってからの支援の重要性を訴えた。リスクがある医療的ケア児を受け入れる中、「多職種との連携で(容体悪化時も)焦らずに対応できる」と述べた。今後の課題として、サービスの種類が切り替わる、18歳以降の行き先の確保も挙げた。

…などと伝えています。

**多職種の連携必要**

研修会 ひたちなか 医療的ケア児支援

ひたちなか市内の障害福祉サービス事業所を対象にした研修会が6月29日、同市東石川のワークプラザ勝田であり、医療的ケア児の支援をテーマにデイサービス経営者と病院職員が講演し、多職種での連携の必要性を説いた。

研修会は市の委託事業で相談支援事業所「こもれび」が企画し、事業所の職員ら約40人が参加した。

医療的ケア児は、たん吸引やおなかに穴を開けてチューブで栄養を送る胃ろうなどの医療行為が日常的に必要で、看護する親の負担が課題になっている。

研修会では、医療的ケア児を日中預かる市内の重症児デイサービス経営者2人と県立こども病院のソーシャルワーカーが講師を務めた。病院側からは、家族の休息となるショートステイが不足し、「家族だけで頑張らざるを得ない状況」との指摘があった。また、退院後の様子は病院では十分に把握できないため、在宅生活を支えている事業所に対して「地域での家族のことを教えてほしい」と情報共有を求めた。

一方で重症児デイサービス側は「退院は病院にとって『出口』の位置付けだが、在宅に移る家族には『入り口問題』とし、自宅に戻ってからの支援の重要性を訴えた。リスクがある医療的ケア児を受け入れる中、「多職種との連携で(容体悪化時も)焦らずに対応できる」と述べた。今後の課題として、サービスの種類が切り替わる、18歳以降の行き先の確保も挙げた。

…などと伝えています。

（斎藤明成）

茨城新聞みと・まち情報館

館は水戸市南町の水戸駅1階ロビーで6月30日9回とまち・音楽ワイアン&フラカールを聞き、約60人が訪れグループが本格的なハイン音楽から懐かしい昭和演奏し、フラダンス